

令和 4 年 9 月 5 日

令和 4 年度 特別の教育課程の実施状況等について

鹿児島県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿屋市立鹿屋小学校（外 23 校）	鹿屋市教育委員会	公立

1 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
鹿屋市立鹿屋小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/kanoya_es/index.html	〃
鹿屋市立祓川小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/haraigawa_es/index.html	〃
鹿屋市立東原小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/higashihara_es/index.html	〃
鹿屋市立笠野原小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/kasanohara_es/hpg000210401.htm	〃
鹿屋市立寿小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/kotobuki_es/index.html	〃
鹿屋市立寿北小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/kotobukikita_es/index.html	〃
鹿屋市立田崎小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/tasaki_es/index.html	〃
鹿屋市立西原小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/nishihara_es/mentenance_index.html	〃
鹿屋市立西原台小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/nishiharadai_es/index.html	〃
鹿屋市立花岡小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/hanaoka_es/index.html	〃
鹿屋市立野里小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/nozato_es/index.html	〃
鹿屋市立大始良小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/ooaira_es/hpg000211601.htm	〃
鹿屋市立南小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/minami_es/index.html	〃
鹿屋市立西俣小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/nishimata_es/index.html	〃
鹿屋市立高隈小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/takakuma_es/index.html	〃
鹿屋市立大黒小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/ooguro_es/index.html	〃
鹿屋市立輝北小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/kihoku_es/index.html	〃
鹿屋市立串良小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/kushira_es/index.html	〃
鹿屋市立細山田小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/hosoyamada_es/HP/index.html	〃
鹿屋市立上小原小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/kamiobaru_es/index.html	〃
鹿屋市立吾平小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/aira_es/index.html	〃
鹿屋市立鶴峰小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/turumine_es/index.html	〃
鹿屋市立下名小学校	http://www.edu-kanoya.net/edu/shimomyou_es/index.html	〃

2 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市では、令和3年度～令和4年度、市内全小学校が文部科学省教育課程特例校の指定を受け、下述の時数を確保し、現行の学習指導要領（外国語活動・外国語科）を踏まえ、「英語科」として先進的な英語教育の実践研究を推進しています。

英語大好きな子どもたちをイメージし、小学1年生から児童の興味・関心や理解度に合わせた英語を使って段階的に指導し、小学校6年間を通して、総合的にコミュニケーション能力の基礎を育成し、小・中一貫による英語教育の推進を図ることを目指しています。

学 年	1年	2年	3年	4年	5年(教科)	6年(教科)	総時数
年間時数	20	20	35	35	70	70	250
使用する教材等	オリジナル	オリジナル	Let's Try!1	Let's Try!2	教科書 My Book Picture Dictionary	教科書 My Book Picture Dictionary	

(2) 鹿屋市の英語教育の目指す生徒像

学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性鹿屋市の英語教育の目指す生徒像「地球規模で様々な問題を考え、郷土の魅力を生かして、英語を使って、能動的に課題解決に向けた行動を起こす児童生徒の育成」子どもたちが英語の学習に主体的に取り組み、コミュニケーション能力を育成した結果、郷土の課題解決に貢献したり、グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献したりする人材の育成を目指します。子どもたち・先生方・学校・保護者・地域が一体となって、「わくわく」するような授業を一緒につくり、多文化共生社会を生き抜く「グローバル人材」の育成を目指します。

ア 鹿屋市の英語教育とALT（6人）派遣業務委託先との共通理解

授業を進めるにあたっては、定期的なALT指導法研修会を基に、鹿屋市の推進する英語教育の目標の共通理解を図っている。

また、令和4年度からグローバル・イングリッシュ・デイキャンプ等における学校・地域・家庭の連携が図られた英語教育の推進（英語のまちづくり）に向けた実践に取り組んでいる。その際、学校教育課だけでなく、生涯学習課等の協力も得ながら、教育委員会内の横断的な取組の充実も図っていく。

イ 小学校低学年からの英語教育「外国語活動の要素を重点として」の実施

下記に示す英語教育圏推進会議等には、幼稚園等の先生方にも参加を呼びかけ、連携を図っていくことで、幼少連携の充実に繋げるようにしていく。

ウ 中学年から「書くこと」「読むこと」への慣れ親しみを意識した指導の実施

- (ア) 鹿屋市の英語教育推進にあたっては、鹿屋市外国語活動・外国語科年間指導計画及びガイドブックを朝日大学 亀谷みゆき教授（鹿屋市英語教育推進アドバイザー）の助言をいただきながら、令和2年度に作成しており、昨年度の課題に基づき、令和3年度からは、学期ごとに改善を図りながら、先進的な研究実践に取り組んでいる。
- (イ) 英語指導講師5名を各英語教育圏に配置し、小学校でのIT授業や教材等の共有をはじめとして、連携を図っている。また、定期的に市教育委員会主催の英語講師指導法研修会を開催し、情報共有並びに研修の充実を図っている。本年度の文部科学省の先導的オンライン研修にも5名の英語講師は全員参加し自己研鑽に努めている。（小小連携の充実）

エ 各中学校区ごとに、英語教育圏推進会議を設置

読むこと・書くこと・話すこと（やりとり）・話すこと（発表）・聞くことの5領域別にテーマを設定し、交流授業・英語教育圏推進会議の実施（小中一貫の充実）や普段の授業実践の成果と課題をTeamsで共有している。

また、各中学校区ごとの英語教育圏の代表者からなる鹿屋市英語教育圏推進会議（全体）を新たに設置し、各地区の実践の集約や研修体制の組織づくりを推進している。

※ 年度末に各英語教育圏の研究実践内容をまとめて発表する予定である。

オ 国立台北教育大学教育実習生（台湾）招致 【令和4年9月5日～】

(ア) これまでの経緯と実践から

本市では鹿児島大学教育学部の教育実習提携校として各小中学校1校ずつで教育実習生を受け入れている。また、鹿児島大学教育学部は、平成25年度より国立台北教育大学との学術提携に基づき、教育実習生（小学校英語教育）10名程度を受け入れ、鹿児島大学教育学部附属小中学校での実習を行っている。

(イ) 令和4年度からの本市の取組

国立台北教育大並びに鹿児島大学教育学部と協議を進め、遠隔による教育実習を鹿屋市立鹿屋女子高等学校で実施（新型コロナウイルス感染拡大により対面からの変更）また、希望する鹿屋市立小・中学校にても遠隔での交流授業を実施予定

(ウ) 令和5年度以降の本市の展望（案）

- a 国立台北教育大学との連携の基、ICTを活用したより必然性のある目的・場面・状況等を意識した言語活動や遠隔授業の充実、小・中・高生の人的交流、小（ホームステイ）に繋げていく予定である。
- b 隔年での児童・生徒派遣、短期留学等を通して、英語のまちづくりを推進するとともに、「平和のまち鹿屋」という地域の特色を生かし、「世界平和」という共通の目的に向かって、共通の取組を児童・生徒が企画立案する環境づくりの推

進を図りたい。(現在本市で取り組んでいる、平和の花束スピーチコンテスト「英語部門」や英語スピーチコンテスト等)を台北市との連携を生かし拡充していく。
 ※ 令和4年度は350人を超える台湾からの応募をいただき、小学校6年生が3位に入賞

オ グローカル・イングリッシュ・デイキャンプ (学校の学びを実践場面と繋ぐ)

生涯学習課並びに、鹿屋市子ども会育成連絡協議会と連携を図り、各英語教育圏の地域の魅力を生かし、地域に暮らす外国人の「おもてなしイングリッシュキャンプ」を年7回開催

(ア) 第2回鹿屋市グローバル・イングリッシュ・デイキャンプの様子

- a 6月25日(土)大隅青少年自然の家
- b 小・中・高 計40人 ⇒ 保護者1人まで参加可能
- c 今坂南子ども会による、ALTのおもてなしキャンプ (相撲⇒紙相撲)

(イ) 地域の良さをタブレットで紹介、平和に関する読み聞かせ・平和のメッセージ作成



児童による英語進行



歓送式



入国審査疑似体験



郷土の魅力をALTへ発信



伝統 相撲大会⇒紙相撲 平和のメッセージ作成



平和の本⇒劇【読み聞かせ】



(3) 特例の適用開始日

令和3年度変更手続き

令和4年度承認済

3 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画どおり実施できている。
- ・ 一部、計画通り実施できていない。
- ・ ほとんど計画通り実施できていない。

(2) 実施状況に関する特記事項

市で小学校英語指導講師5名を雇用し、担任と英語指導講師がティーム・ティーチングを行うことにより、円滑に特別の教育課程を実施できるように指導体制を整備している。また、年間指導計画や教材等に加え、ガイドブックも配布し、授業の充実を目指している。

3の(1)については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校運営協議会による授業参観が実施できない学校が1校、閉校した学校が1校あったことによるものである。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している。
- ・ 実施していない。

〈特記事項〉

定期的なPTA授業参観等に加え、学校運営協議会の委員による授業参観も年間1回は実施し、情報提供をするとともに特別の教育課程の教育効果について評価を依頼している。

4 実施の効果及び課題

(1) 自己評価・外部評価の結果から（令和4年6月30日締切 実施調結果査）

ア 児童アンケート（※対象校：23校）

Q 英語の授業は好きですか。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4 好き	80.1%	72.9%	67.6%	55.4%	48.3%	35.2%
3 どちらかという好き	13.8%	17.3%	18.5%	30.0%	35.2%	41.7%
2 あまり好きではない	4.5%	7.0%	10.2%	11.7%	11.8%	16.2%
1 好きではない	1.6%	2.8%	2.7%	2.9%	4.7%	6.9%
回答した児童数（人）	1027	1016	1043	1003	1049	993

イ 教員アンケート（※対象校：23校 ※回答した教員344人）

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

4 思う	48.0%
3 どちらかというと思う	47.7%
2 どちらかというと思わない	3.5%
1 思わない	0.8%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。

- ・ 英語に対する苦手意識を持たせないで、楽しく英語に親しませる。
- ・ いろいろな国の人とコミュニケーションがとれる人になってほしい。
- ・ 英語でも日本語でも、相手に思いを伝えたり、相手の思いを受け入れたりする積極的コミュニケーションが育つことを期待しています。
- ・ 誰とでも自分からコミュニケーションを図ろうとする態度の育成 互いを理解しようとする態度の育成
- ・ 外国の人（先生）やJTEを通して異文化に触れて興味を持つこと
- ・ 外国の人と仲良くしたいという気持ちを持ち、仲よくなるには、外国語を使うとよいことに気付き楽しく学んでいくと

ウ 保護者アンケート結果（※対象校：23校 ※回答した保護者3150人）

Q1 お子さんは、英語の授業が好きですか。

4 思う	44.1%
3 どちらかというと思う	39.4%
2 どちらかというと思わない	13.6%
1 思わない	2.9%

Q 2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。

- ・ 日常の中で楽しみながら自然と身につく英語。 楽しく英語に接してほしい。
- ・ 将来、役に立ち、英語に興味や関心を持ってほしい。
- ・ 英語教育を受けることによって外国語への興味がわいたり、抵抗なくスムーズに他言語を受け入れられるように楽しく受けられるようにしてほしい。
- ・ 一年生から英語を学ぶ事で、視野が広がりなりたい職業も広がって行く事に繋がると期待しています。海外の人とも違和感を抱く事なく、コミュニケーションが取れたら良いなと思います。
- ・ 小中一貫教育を見据えた場合、英語教育に対し一年生からスタートされた方が自然に特別感なく耳に入りすんなり日常に入り込んでいくのではと思います。
- ・ 難しいと思わず、コミュニケーションのツールだと思える様な授業であって欲しい。
- ・ フォニックスの音を1年生からすると為になるのではないかなとも思います。
- ・ 英語を嫌いになる要素をできるだけ失くしてほしい。英語学習が低年齢化したせいで中学に入るまえに既に英語嫌いの生徒が多くいるらしい。

学校運営協議会アンケート（※対象校：23校 ※回答した委員179人）

Q 1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

4 思う	84.4%
3 どちらかと思う	14.0%
2 どちらかと思わない	1.6%
1 思わない	0

Q 2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。

- ・ 英語教育に1年生の段階で学ぶことで外国への興味が生まれるので良いとおもいます。
- ・ 学習のみに英語にならず、話したり、楽しくコミュニケーションしたりするツールとして使えることを期待します。
- ・ 耳で聴いて英語をたくさんインプットしてほしいので、休み時間などのBGMに沢山聴かせてほしいです。
- ・ コミュニケーション力の育成、英語を好きになり親しむことのできる子どもの育成、異文化への興味・関心を高めてほしい。
- ・ 英語に苦手意識が出る前に、英語でのコミュニケーションが当たり前の感覚を身につけてほしい。
- ・ 完璧な英語が話せなくても、コミュニケーションははかれるので、一単語でも聞き取る・話すことを日常に取り入れてほしい。